

令和5年度 第1回 曳馬小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和5年5月2日(金) 午前10時20分から 午前11時30分
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 鈴木厚(会長)、飯尾忠弘(副会長)、川井啓介、小楠和子、加藤美智子、飯尾智弘、池村俊典(学校支援コーディネーター)、中津川涼、大野木祥代
- 4 欠席委員 丸茂早織
- 5 オブザーバー 野川敬司(曳馬協働センター)、中村佐知枝(主任児童員)
- 6 学校 竹内孝夫(校長)、土屋憲司(教頭)、影山重広(主幹教諭)、鈴木謙志(CS 担当)、内堀邦子(CS ディレクター)
- 7 教育委員会 鈴木陽子、林亮吾(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 内堀邦子(CS ディレクター)
- 10 会長の選出及び副会長の指名

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木厚委員を会長に推挙する発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された鈴木厚会長から、飯尾忠弘委員を副会長にする旨の報告があった。

11 議長選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ鈴木会長にを推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。

12 協議事項

- ① 令和5年度 学校運営の基本方針について (竹内校長)
- ② いじめ防止等のための基本方針 (竹内校長)
- ③ 「夢やらまいか事業報告」について (土屋教頭)
- ④ 報告
 - ・「学校支援の在り方」について(影山主幹教諭)
 - ・昨年度の活動報告(池村委員、飯尾智弘委員)

13 会議記録

曳馬小学校運営協議会は令和3年に立ち上げ、3年目に入った。

学校運営協議会の規則の確認を行った。(別紙参照)

運営協議会委員自己評価および学校評価について(別紙参照)

学校運営協議会の目的を理解いただき、特色ある学校作りへの活動に参画し御協力をお願いしたい。(鈴木陽子)

司会の土屋教頭から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。オブザーバーとして、曳馬協働センターの野川敬司さん、主任児童員の中村佐知子さんに参加していただいた。

①令和5年度 学校運営の基本方針について（竹内校長）

令和5年度学校経営構想を参照

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、以下の発言があった。

グランドデザインについて

はままつの教育が目指す子供の姿は昨年度から変更なし

曳馬中校区が目指す子供の姿も昨年度から変更なし

学校教育目標も昨年度と変更なし。ただし、もう少し積極的に変えていく予定。

徳・体・知から学校目標の「こころやさしく ねばり強く 学び続ける子」をうけて

目指す子供の姿を

- ・ひとの気持ちの分かる子 → 人の気持ちが分かるだけでなく、理解して行動に移せる子
- ・くるしくても負けない子 → 苦しい時に休んだり、逃げたり、かわしたりしていけることも大切。
- ・まなぶ楽しさの分かる子 → 遊んで「？」を探求し「！」歓び感動を創造する子供としていきたい。

キャリア教育でも育てたい目標の「㊦・㊧・㊨・㊩」がある。この「㊦・㊧・㊨・㊩」は子どもには定着している。

- ・ひとの気持ちが分かる子 → 人間関係能力社会形成能力などを培う。
- ・くるしくても負けない子 → 自己理解
- ・まなぶ楽しさの分かる子 → 課題対応能力
- ・これからを描く → キャリアプランニング能力

重点目標の「自己肯定感、伝え合う力を高め、主体性協調性を育む」は実行出来ているので、子供たちが「知りたい」「やってみたい」をかなえる子供主役の学校へ変更していくつもり。

そのために、学校経営の重点を「子供の興味・関心、人とのかかわり」とし、目指す教職員集団の姿を「支え合い、社会に目を向け未来を考える」とする。

学習推進(主体的に学ぶ授業単元作り、キャリア教育、ICT)、安心安全(みんなが心地よい学校作り)、連携(地域・家庭との情報共有、コミュニティスクールの充実)

(竹内校長)

校長先生の想いを理解して、コミュニティスクールとして協力していきたい。

経営構想を基に何か意見があればお願いしたい。

学校経営構想は自治会運営にもとても参考になるので、勉強になった。(鈴木厚会長)

経営の重点にアセスメント(評価)による改革の文字があった。改革という重い言葉を使い、経験値で判断することがないような改革を行い、より良い教育を提供していくとありますが、どの程度の改革を行うつもりなのか。(飯尾忠弘委員)

学校改革を進めるため組織を変えたが、意識まで踏み込んでいない。教職員の意識を変えて、子ども主体の未来思考へと改革を進めたい。文科省は 2020 年代の 10 年間で大転換をしていくと考えている。残り 7 年で大きな意識改革を行っていく。(竹内校長)

国から改革指示を受け、教職員の意識改革を進めている今の曳馬小学校は、時代の先端を行っているように感じる。一年生を迎える会を見ても、子供が主体的に行動できている様に感じた。(飯尾忠弘委員)

最近の社会問題を鑑みて、安易にやったことが大きな事件に発展することを理解することは大切。先のことを考えられる子に育ててもらいたいと思う。「子供が主体」という考えが良い。(中津川委員)

学校経営構想の校長先生からの説明について理解し、全員異議なく承認した。

②いじめ防止のための基本方針について(別紙参照)

浜松市が示したいじめ防止基本方針(全 16 ページ)

8 ページに各学校が行っていく具体的な内容が掲載されている。日常的にいじめを防ぐ学校風土を構築していく。

14 ページ(2)家庭の役割が書かれている。次の学校だよりにこの内容を掲載する予定。例えば、各家庭で気づいたことや気になる事を連絡ノートで学校へお知らせいただき、情報共有し、いじめがあった場合に早期発見できるようにする等。

いじめの重大事態案件については、重大と判断するのは浜松市。重い案件は市と情報共有し連携を行っていく。重大事態が起こらない学校を目指していく。(竹内校長)

いじめ防止基本方針は内容が多いため、日ごろお気づきの点と合わせて次回以降少しずつ意見をお願いし共有できればと思う。(鈴木厚会長)

不登校児童は現在何人いるのか。(加藤委員)

不登校の定義は 30 日以上休んでいる場合の子どものこと。新年度スタートしたばかりなので特定できない。教室に入れない子や毎日は登校できない子など、子どもの状態は様々。(竹内校長)

不登校児童数が昔より増えているように思う。(鈴木厚会長)

今年度朝の登校時、登校班で子どもの登校している際上級生が下級生の面倒をよくみている姿に感動した。各保護者が子供につきそう姿が昨年度より少なく、上級生が1年生に合わせて登校していて素晴らしいと思った。(加藤委員)

学校生活は同級生のつながり、子ども会は縦のつながりを作る場所。しかし、近年子ども会が縮小傾向である。学校生活の中で、通学班は縦のつながりを作る場になっている。低学年の保護者は高学年の子どもに登校をサポートしてもらっていることに感謝し、成長して高学年になったら低学年の子をサポートする側に回っていくことを教える。この良い循環が続けば良いと思う。通学班については次回以降検討していきたい。(鈴木厚会長)

いじめ防止基本方針について協議の結果、全員意義なくこれを承認した。(鈴木厚会長)

③「夢育やらまいか事業報告」について(別紙参照)

夢を育む学校づくり推進協議会へ、曳馬小の学校経営構想のグランドデザインを実現させるための予算として、別紙のように予算案を作成し提出予定。費用の主な使用目的は、学校スクールカレンダー作成や子どもが地域理解および探求のために先生を招いた際の謝礼などに使う予定。(土屋教頭)

学校スクールカレンダーは誰に配っているか(鈴木厚会長)

主に生徒の家庭に配付。(影山主幹教諭)

上半期に参観できる行事はこのスクールカレンダーを見て何かあるか。(鈴木厚会長)

前期は6月の道徳「命について考える」授業参観など、後期の方が多い。(影山主幹教諭)

夢育やらまいか事業予算案についてご意見がなければ、協議の結果全員異議なく承認した。(鈴木厚会長)

今年度も協働センターとしてできることを協力していきたい。(野川センター長)

④報告

コミュニティスクール発足して3年目に入った。今後どのような形にしていくのか。3校が協働していければよい。但し、中学校と小学校の支援の内容が違う。小学校は授業支援が主、中学校は部活動の変革が主。今後も各学校で情報共有して相互に協力できるようにしたら良いと思う。

PTAから人材の情報を個別にもらうことがある。コミュニティスクールの委員の任期は最大2期6年間なので、コーディネーター1人で人材のコーディネートをしていくのではなく、今後は複数で行った方が良いのではないかと。後任について学校はどのように考えているのか。参考

までに、曳馬中学校は歴代 PTA の会長がコーディネーターをやっている。(池村委員)

・授業支援の報告(影山主幹教諭)

昨年度の活動報告(別紙参照)

昨年度の活動内容を担ってくださった飯尾智弘委員から説明いただく。(影山主幹教諭)

昨年度は、家庭科でミシンの使い方の授業支援、花壇づくりのボランティア活動を行った。今年度は 5 年生の調理実習のボランティアに入る予定。

ボランティアに入る前に職員室に寄った方が良いのか。

「子どもの〇〇したいという気持ちを大切にしたい」という話を聞き、ボランティア中それに対応できるか不安。(飯尾智弘委員)

ボランティアは教職員にとって心強い存在。(影山主幹教諭)

コーディネーターはボランティアに入ってはいけませんが、人材を発掘するためにはボランティアを理解する必要があり、昨年度ボランティアに入った。実際にボランティアに入ってみると子供との良好関係を築けた。教えると思うのではなく、手伝うという感覚でボランティアに入ると良い。

3 年生は校外へ見学に行き、社会への目を育て始める大切な授業がある学年。

社会見学行くことで子どもは学校以外の社会に目を向ける事が出来る。また、子どもが見学に行った会社では、見学を受け入れたことにより社員へ意識改革が起こり良い影響があり、相互良好な影響が得られたと感じた。(池村委員)

今年度新たに 5 年生の調理実習のボランティアに入る予定。

昨年度 6 年生のミシンの授業でボランティアに入ったクラスの卒業生と卒業後に会った際、中学校のミシンの授業にも来て欲しいといわれた。その際昨年度の花井教頭先生にも賛同いただいている話なので、進めていければと思う。(飯尾智弘委員)

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和 5 年 6 月 9 日(金)午前 10 時 20 分から多目的ホールで開催する旨の報告あがった。